

事務連絡
令和5年4月20日

都道府県下水道担当課長 殿
政令指定都市下水道担当部長 殿
（上記、各地方整備局等経由）
市町村下水道担当部長・課長 殿
（上記、各都道府県経由）
日本下水道事業団事業課長 殿
都市再生機構下水道担当課長 殿

国土交通省水管理・国土保全局下水道部
下水道事業課事業マネジメント推進室課長補佐

下水道工事における安全対策の徹底（その2の2）について （令和5年3月15日神奈川県横浜市発注の工事に伴う死亡事故）

本年3月15日、神奈川県横浜市発注の開削工法による下水管の布設替え工事において、既設管撤去後の深さ約1.3mの掘削穴の中で、作業員が土留め矢板設置の事前準備として、人孔側面に付着した土を落としていたところ、背後の側面の土砂が崩壊し、土砂に含まれていた路盤と思われる固結した碎石の塊が作業員の腰を強打したことで意識不明となり、救急搬送されましたが、死亡するという事故が発生しました。

事故原因等を確認した結果、以下の点について安全対策の不備がありました。

- ・既設管の撤去時は掘削深さが1.3mと浅いため、土留の必要性の判断をせず作業を行ったこと
- ・水道管（掘削側面から約60cm）が平行に埋設されていたが、水道管まわりの土砂および地山の状況を確認せずに予定施工範囲すべての掘削作業を行ったこと

事故原因等を受けまして、別紙のと通りの再発防止策を行うこととされました。

各下水道管理者におかれましては、引き続き工事現場へのパトロールを通じ、施工計画書等に基づく作業手順とおりの施工や安全管理の徹底など改めて確認するとともに、当該再発防止策も参考として安全管理に対する指導を徹底することで受注者の安全意識の醸成を図り、事故の未然防止に努めていただくようお願いします。

事故発生状況と再発防止策 (R5.3.15 神奈川県横浜市)

別紙

【事故発生状況】

開削工法による下水管の布設替え工事において、既設管撤去後の深さ約1.3mの掘削穴の中で、作業員が土留め矢板設置の事前作業のため、人孔側面に付着した土を落としていたところ、背後の土砂が崩壊し、土砂に含まれていた路盤と思われる固結した碎石の塊(幅約600mm×長さ約800mm×厚さ約250mm)が作業員の腰を強打し意識不明となった。別の作業員により掘削穴から救助され救急搬送されたが、死亡が確認された。

【事故発生原因】

- ・ 既設管の撤去時は掘削深さが1.3mと浅いため、土留の必要性の判断をせず作業を行ったこと。

- ・ 水道管(掘削側面から約60cm)が平行に埋設されていたが、水道管まわりの土砂および地山の状況を確認せずに予定施工範囲すべての掘削作業を行ったこと。

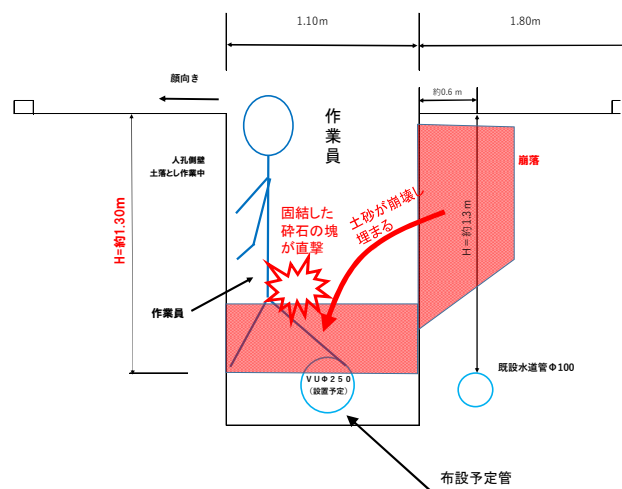
【再発防止策】

- ・ 近接する地下埋設物の状況確認を徹底する。
- ・ 掘削時に地山の状況を目視、スコップなどにより確認し、1.5m未満でも土留設置の必要性の判断を必ず行う。
- ・ 全スパン掘削は行わず、段階的に土留を設置する。
- ・ 土留め設置前の掘削穴には地山の状況を確認したうえで入り全員で声掛け、監視を徹底する。
- ・ 発注者においても、掘削深さが1.5m未満の場合も、土留の必要性の判断を行うことについて施工計画段階で確認する。

【平面図】



【状況図】 (横から見た状況図)



【状況写真】



側面の土砂が崩壊し、固結した碎石の塊が作業員に当たった